

国内最大級の涅槃図修復へ

佐賀・高伝寺所蔵 来年11月に一般公開予定



釈迦の入滅を描いた高伝寺の国内最大級の涅槃図
=25日、福岡県太宰府市の九州国立博物館

九州国立博物館(福岡県太宰府市)は二十五日、旧(六宝永三年、第三代佐賀藩鍋島綱茂の命で、京洞宗・高伝寺(佐賀市)が所蔵する、掛け軸としては国内最大級の涅槃図(縦一五・二尺、横六尺)を公開した。九州国博で破れやしを修復する。作業が終わる来年十一月末ごろに同館で一般公開する予定。

涅槃図は江戸時代の二七(高伝寺では毎年四月十九日)から五月の大型連休までの間、涅槃図を一般公開しているが、前回修復から六十年余が経過し、傷みが目立つことから九州国博に修復を依頼した。佐賀市の重要文化財のため、修復費二千四百万円の半額を同市が助成する。

都の絵師若井利左衛門利久が京都にある東福寺の涅槃図を写し取って描いた。東福寺の図の一・五倍の大きさがある点が最大の特徴。入滅した釈迦を弟子や像、猫などの動物が取り囲んで悲しむ様子を表現している